



環境報告書

2013

八千代工業株式会社

CONTENTS

- トップメッセージ・・・・・・・・・・ 3
- 環境への取り組み・・・・・・・・・・ 4
- 環境マネジメント体制・・・・・・・・ 5
- 中長期目標・・・・・・・・・・ 6
- 2012年度実績・・・・・・・・・・ 7, 8
- CO₂排出量 国内／海外拠点・・ 9, 10
- 環境施策事例・・・・・・・・・・ 11
- 環境に関わる社会活動・・・・・・ 12, 13



社会からその存在を認められ、 期待される企業を目指して

ヤチヨは2011年に、ヤチヨグループが目指す姿を「社会からその存在を認められ、期待される企業を目指す」と決めました。その方向性に基づいて、ヤチヨ2020年Visionとして「卓越した技術と特長ある製品で真のワールドワイドプレイヤーになる」と掲げ、企業活動を展開しています。

このビジョンの達成に向けて、お客様の要求を上回る価値を提供できてこそ、存在を期待される企業であると私たちは考えています。これは、環境に対する姿勢においても同じです。

ヤチヨグループは、環境の課題に真摯に向き合い、環境への取り組みを着実に推進していきます。

ヤチヨグループは、環境基本方針を「地球環境を保全する社会の責任ある一員として、ヤチヨは、全ての企業活動を通じて環境の保全に積極的に行動し、その向上に努めます。」と定めています。ヤチヨグループの環境活動とは、この方針に沿って企業活動を行い、ヤチヨグループの目指す姿に向けて従業員一人ひとりが行動することです。

環境負荷の低減にあたってヤチヨは、温室効果ガスをはじめ、水資源、化学物質、廃棄物に対して、中長期目標を定めて取り組んでいます。2012年度の実績では、減産による売り上げ減少が主に起因して目標未達成となった項目もあり、今後、環境負荷を低減していく取り組みをより強化し、全ての項目で達成を目指します。

また、2016年までに国内の全てのISO14001認証事業所で2014年度版へ移行し、これに合わせて国内で未認証の1事業所においても2014年度版の認証を取得します。海外の未認証拠点についても、取得に向け推進していきます。

ヤチヨグループは、世界11カ国に26拠点を擁し、環境に対してもグローバル企業としての体制へ転換することが必要だと考えています。

昨年は、日本国内の環境負荷物質の削減管理実績を公開しましたが、今年度からは、海外拠点も含めたヤチヨグループ全体の推進管理を加速していきます。

この方向性のもと、今回発行する環境報告書では、新たに海外拠点におけるCO₂排出量を公表しました。今後は、目標を明確にし、他の環境負荷物質についても継続的に低減していく体制をつくりあげていきます。

ヤチヨグループは、これらの施策スピードを上げ、地球の環境保全に向けて積極的に取り組んでいきます。



代表取締役社長

辻井 元



ヤチヨは、下記の環境基本方針・行動指針に基づき、さらに各事業所において独自の方針を定め、環境保全活動を推進しています。

ヤチヨ環境基本方針

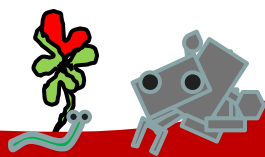
地球環境を保全する社会の責任ある一員として、ヤチヨは、全ての企業活動を通じて環境の保全に積極的に行動し、その向上に努めます

行動指針

- (1)事業活動・製品及びサービスにおいて、地球環境の保全に配慮して行動し、継続的改善及び汚染の予防に努めます。
- (2)企業活動全域で、資源・エネルギーの節約と、リサイクルの促進に努めます。
- (3)事業活動の各段階で発生する廃棄物・汚染物質の削減と、適切な処理に努めます。
- (4)地域の環境改善活動に積極的に参加し、社会から高い信頼を得られるように努めます。

1998年6月25日 制定

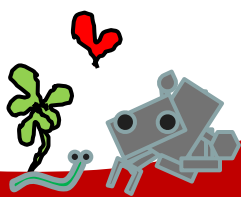
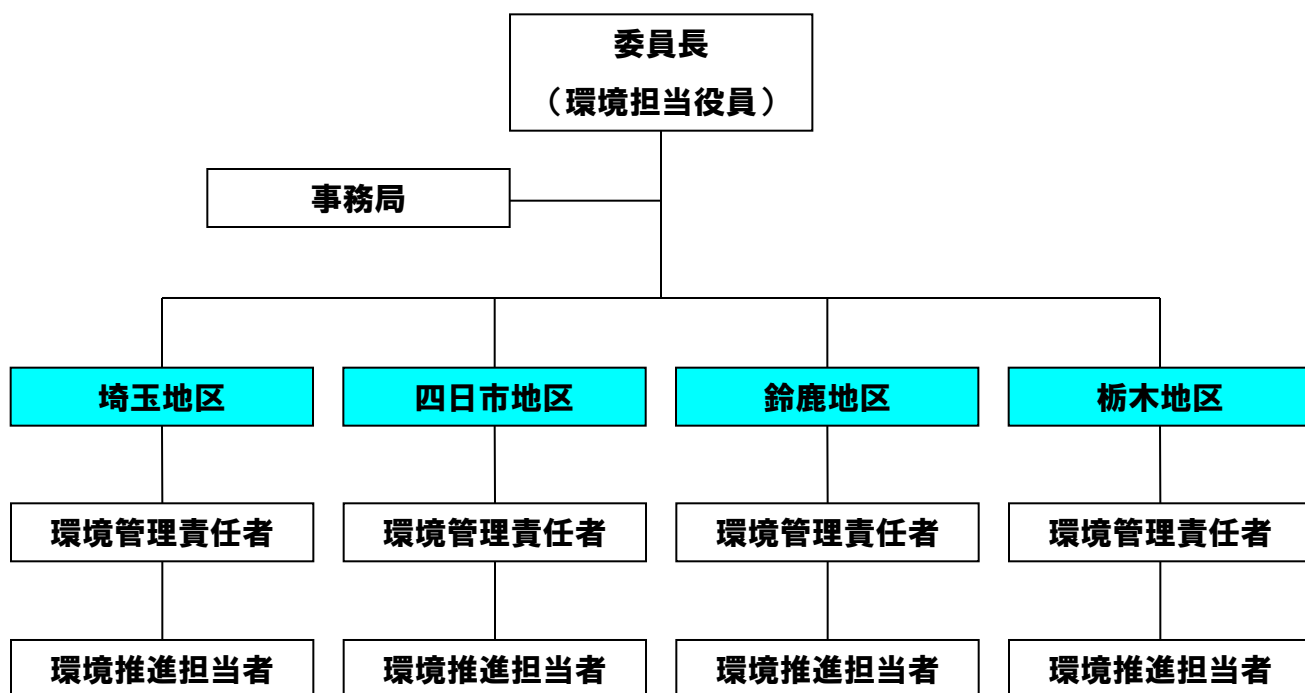
1998年7月13日 改訂



ヤチヨは、各事業所において年度目標を定め、環境マネジメントプログラムに基づき、環境保全活動を進めています。

全社環境公害委員会を設置し、各事業所に環境管理責任者、環境推進担当者を配置した運用体制を整備し、環境負荷低減活動を推進しています。

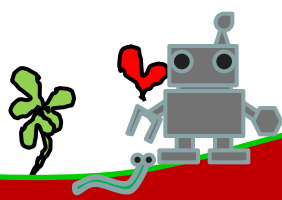
●全社環境公害委員会体制図



ヤチヨは、環境負荷低減に対して中長期の目標を定め、
全社的に削減管理を行っています。

		2012年度	2013年度	2020年度
CO ₂ 排出量	総排出量	42,000トン	41,500トン	34,000トン
		1990年度比 14%低減	1990年度比 15%低減	1990年度比 30%低減
	排出量原単位	2010年度を基準に年1%ずつ低減		
VOC排出量 (※)	排出量原単位	2010年度を基準に年1%ずつ低減		
水資源使用量	使用量原単位	2010年度を基準に年1%ずつ低減		
廃棄物量	廃棄量原単位	2010年度を基準に年1%ずつ低減		

※ VOC(Volatile Organic Compounds)=揮発性有機化合物



●CO₂排出量 低減

排出総量

単位：トン／年

	2012年度		評価	2013年度
	目標	実績		目標
CO ₂ 排出量 総量	42,000	34,025	○	41,500
部品事業	19,700	17,847	○	19,400
完成車事業	22,300	16,178	○	22,100

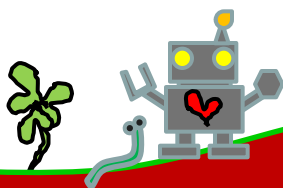
排出量原単位

単位：トン／百万円・年

	2012年度		評価	2013年度
	目標	実績		目標
CO ₂ 排出量 原単位	0.203	0.268	※ ×	0.201
部品事業	0.294	0.299	※ ×	0.291
完成車事業	0.160	0.241	※ ×	0.158

※ 目標の未達成について

減産影響により売り上げが減少したこと、また生産現場における勤務形態が2交替制から平常勤務(1直体制)へ変化したことなどが起因し、売上原単位は目標未達成となりました。

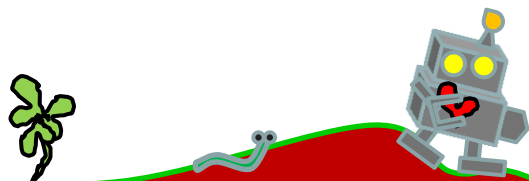


●その他 環境負荷 低減

		2012年度		評価	2013年度
		目標	実績		目標
VOC排出量 原単位	部品事業	2010年度比 2%低減	-7.2%	○	2010年度比 3%低減
	完成車事業		-6.3%	○	
水資源使用量 原単位	部品事業		+2.0%	※ ×	
	完成車事業		+17.0%	※ ×	
廃棄物量 原単位	部品事業		+1.5%	※ ×	
	完成車事業		+10.5%	※ ×	

※ 水資源使用量および廃棄物量における原単位目標の未達成について

減産影響により売り上げが減少したこと、また生産現場における勤務形態が2交替制から平常勤務(1直体制)へ変化したことなどが起因し、売上原単位は目標未達成となりました。

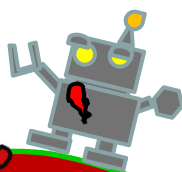


●CO₂排出量 国内拠点内訳

単位：トン／年

	2010年度 (基準年)	2011年度	2012年度
目標	—	42,500	42,000
実績	43,353	41,679	34,025

事業所	2010年 (基準年)	2011年	2012年
本社および柏原工場	6,688	7,074	5,167
鈴鹿工場	6,321	5,635	4,807
鈴鹿工場 亀山事業所	5,401	5,818	5,969
四日市製作所	23,750	22,169	16,178
栃木研究所	1,193	983	1,324
埼玉研究所 （ 2012年11月 本格稼働 ）	—	—	580



単位：トン／年

地域	海外拠点	2011年	2012年	操業開始
米州	ヤチヨ オブ オンタリオ マニュファクチュアリング インコーポレーテッド	2,824	2,843	1990年5月
	エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド	2,950	3,279	1997年10月
	ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド	7,201	8,063	2000年7月
	ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド	706	702	2001年6月
	ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アラバマ エル エル シー	4,592	5,012	2001年9月
	ヤチヨド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ	74	953	2011年11月
	ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デ シー ブイ	—	—	2013年9月 (予定)
アジア	サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド	4,989	7,015	1998年1月
	ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド	—	766	2012年9月
	ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア	—	—	2013年8月
中国	八千代工業(中山)有限公司	4,153	3,982	2003年9月
	八千代工業(武漢)有限公司	2,704	3,600	2007年4月

海外拠点のCO₂排出量は、エネルギー投入量から換算しています。

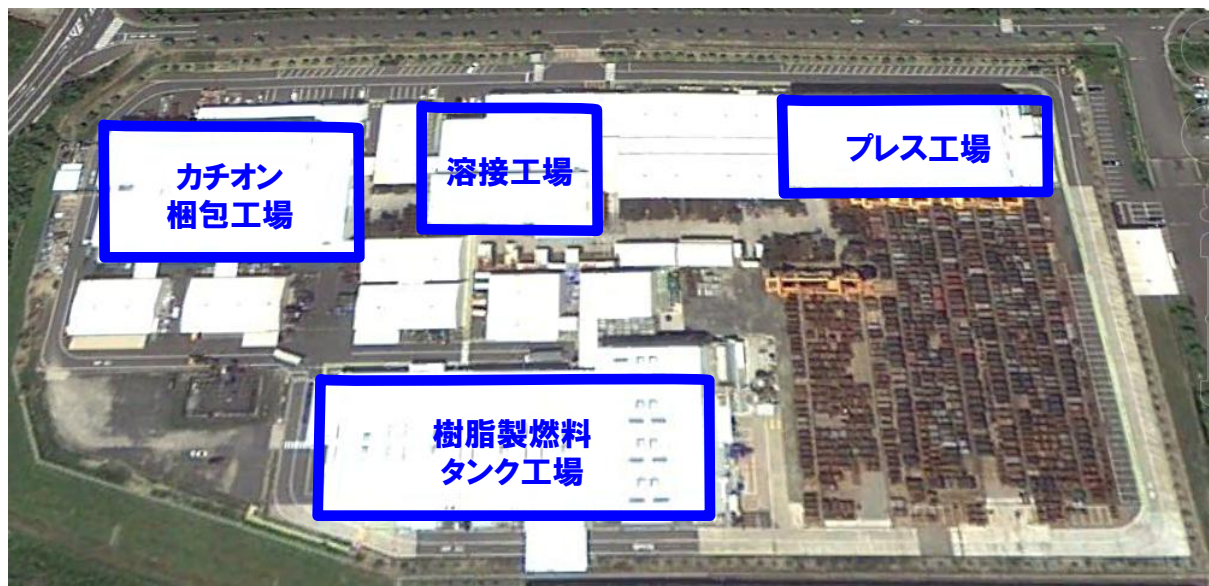
2014年度からはCO₂削減管理を行っていきます。



ヤチヨは、事業所毎に環境に対する施策を実施し、環境負荷を低減する活動を継続しています。

○鈴鹿工場 亀山事業所 全建屋の水銀灯をLED化

鈴鹿工場 亀山事業所では、2013年5月、事業所内全工場建屋の水銀灯197灯をLED照明に変更し、消費電力の低減、CO₂排出量の低減を行いました。



鈴鹿工場 亀山事業所



プレス工場



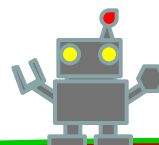
樹脂製燃料タンク工場

<CO₂低減効果>

97.0トン/年

高さ10mの樹木

約2,000本分の吸収量



ヤチヨは、事業所毎に地域の活動を通じ、地域社会の環境向上に努めています。

①事業所周辺地域クリーン作戦



2012年11月10日

四日市製作所クリーン作戦



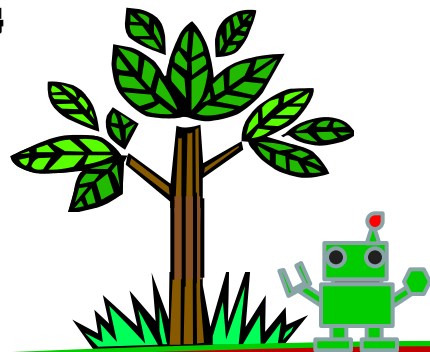
2012年12月15日

本社および柏原工場クリーン作戦

②狭山市環境ISO連絡会の会員として、狭山市内の会員企業様と環境保全に係る情報の交換および実務的な交流を図っています。



2013年3月2日 狭山市主催 入間川河川敷清掃



③地域自治会(まきの木台自治会)との環境コミュニケーション

2012年7月8日 四日市製作所

四日市製作所の地域環境への取り組みについて地域の方々へ
ご報告し、環境についての意見交換を行っています。



報告、意見交換の様子



より理解を深めていただくため、
工場見学を実施

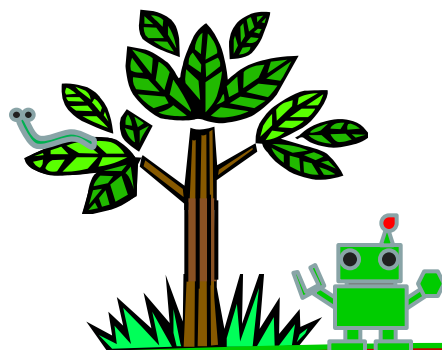
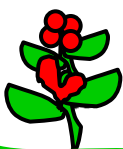
④帽子のリサイクル

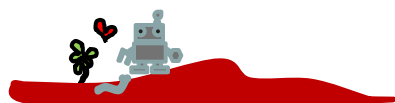
2013年4月1日に作業帽子のデザインを刷新したことに伴い、
これまで使用していた帽子を全数回収し、石炭代替燃料として
RPFへリサイクルしました。



＜廃棄物量 削減効果＞

389kg





<2013年環境報告書デザインコンセプト>

表紙のデザインは、私たちが暮らす豊かな地球から草木が育ち花が咲き、それを守り続けたいという意志を表現しています。

また、各ページ下の「ロボット」のモチーフは、製造業であるヤチヨが生み出す製品や普段使用している設備にも『心』があり、環境の『花＝心』が宿ることで優しさを持ち、美しい未来をつくるために歩んでいく。その優しさが地球環境への架け橋となる。

そんな「存在を期待される企業」を目指したいというヤチヨの願いを、このビジュアルに込めました。

●編集

全社環境公害委員会

委員長 本告 次男
事務局 倉田 周市

●お問い合わせ

本社 総務部 総務ブロック
〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393
TEL 04-2955-1211(代表)
FAX 04-2955-1217

●本報告書の集計対象期間

2012年4月1日 ～ 2013年3月31日

発行	八千代工業株式会社 総務部
発行責任者	総務部長 水谷 泰之
発行日	2013年9月



環境報告書 2013

八千代工業株式会社

〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393